

発電機能を備えたモニュメントを自作

館林金属工業団地(協)

本組合は、創立50周年記念事業の一環で、モニュメントを自作し、組合事務所敷地の入口に設置した。モニュメントは組合一丸という思いで、企画から設置に至るまで、全組合員14社が得意分野で製作に関わった。

モニュメント上部は風を受けると回転する風力発電の機能を備えるとともに、ソーラーパネルも取り付けられている。日中、発電した電気はバッテリーに蓄電し、防犯カメラの電力として供給するほか、夜間、モニュメント中央にある50周年



ブルーを基調とした近未来的なデザイン

のロゴをデザインしたプレートに光らせる電力として利用。さらに、停電時には、非常用電源として活用も可能という。

今回のモニュメント製作で、各社が協力しながら、ひとつの製品を完成できたことは、貴重な経験となったと話している。

ガス衣料乾燥機を消防署に寄贈

前橋ガス事業(協)

本組合は、地域貢献活動の一環として、ガス衣料乾燥機を消防署へ寄贈することを決め、前橋市南消防署に設置工事を行った。

ガス衣料乾燥機は、電気乾燥機と比べると、乾く時間は1/3に短縮、コストは約1/2に抑えられ、仕上がりもパリッとするという。「従来は、火災現場で濡れた作業靴などは、自然乾燥を行っていたと聞かすが、今後は、乾燥機を活用することで、消火活動の効率化に役立ててもらえれば」と渡邊誠理事長は話す。

組合は、前橋市が行う防災訓練にも積極的に協力し、バルクシステムという災害時の初期救援



で役立つLPガス供給装置の周知活動も行うなど、地域の暮らしを支える組織づくりを目指している。



寄贈式で感謝状を手にする渡邊理事長(中央)と理事の面々(左)

組合開設45周年記念市を開催

群馬県素材生産流通(協)

9月7日、藤岡市・原木市場において、45周年記念市の入札を行った。また、入札に先立ち、記念式典を開催。直近1年間で、組合へ素材を出荷した組合員の中の上位10社と、組合から材木を購入した金額の多い買方業者に対して、小菅正治副理事長が感謝状を授与した。

なお、本式典は毎年開催していたが、コロナ感染拡大に伴い中止が続き、開催は4年ぶり。



感謝状を手渡す小菅副理事長(左)

Local Area News

失敗から得た経営の教訓に触れる

高崎卸商社街(協)

9月13日、高崎卸商社街(協)の青年部組織である高崎問屋街青年経営者研究会が、ビエント高崎において、株式会社やまと(食品スーパー)の元代表取締役・小林久氏を講師に招き、倒産へ至る経緯や教訓についての研修会を開催した。

小林氏はまず、社長就任後に大改革して2年で黒字化に成功してから倒産に至るまでの体験を語った。その上で、自らが考える5つの倒産原因として①ワンマン経営、②過剰な地域貢献、③長期的視点の欠如、④過去の成功体験の過信、⑤信用不安に伴うリスクの軽視について解説した。

最後に、「会社が倒産して良いことは何もない。経営者は絶対に会社を倒産させてはダメだと心に刻んで欲しい」と思いを伝えた。



小林氏の赤裸々な体験談に耳を傾けた

「合同研修会(視察研修会)」を実施

群馬県コンクリートブロック事業(協)

9月15日、組合員及び取引事業者による建築物の視察研修を実施。古民家再生を数多く手掛ける建築デザイナーのカール・ベクス氏(カール・ベクス氏)が暮らす新潟県十日町市竹所(たけところ)集落にある様々な古民家を見学した。また、古民家を再生したベ

クス氏の事務所を訪問し、こだわりの内装について説明を受けた。古民家特有の太く立派な柱や梁が、温かみのあるアースカラーの漆喰壁と調和し、洗練されたモダンなデザインとなっている。

さらに、西福寺と永林寺も訪問し、幕末の名匠・石川雲蝶が施した華々しい彫刻や絵画の数々を見学。職人が手掛けることで生まれるものづくりの美しさを実感する充実した研修内容となった。



かやぶき屋根のベクス氏自宅「双鶴庵」前にて

SDGsに必要な精神を学ぶ

群馬県鉄構業(協)

9月15日、ホテルグランビュー高崎において「SDGsと企業活動について」をテーマに講習会を開催。講師は、環境カウンセラーの富所哲平氏。

富所氏はまず、SDGsにおいてはつながりを知り、物事の全体像を掴むことが重要と説いた。中でも、「自分さえよければ良い」という発想は、結果的に自分に負の影響が返ってくると述べ、賞味期限が迫った牛乳を選ばないことで廃棄が増え、価格に転嫁される可能性を例示した。

また、中小企業は大企業に比べてビジョンの共有がスムーズで、SDGsへ取り組みやすいと持論を展開。SDGs関連産業は、将来的に3,000兆円を超える市場規模になるとの試算があることを紹介し、ビジネスチャンスになり得ると述べた。

最後に、SDGsは、子供や孫世代へ健全な地球環境を残すため、また企業価値向上のために必要であると説き、失敗を恐れず挑戦して欲しいと呼びかけた。



身近な例えを交えて説明